

今年もがんでたくさんのお名人が命を落としました。なかでも女優の樹木希林さんの「生き方」「逝き方」に心を揺さぶられた人も多かったのではないのでしょうか。2004年に希林さんは乳がんが判明し、乳房の全摘手術を受けました。その後「全身がん」を公言していました。

この「全身がん」は医学用語ではありません。さまざまな部位への転移が見つかった「全身転移」の状態でした。

遺伝子の「経年劣化」によって不死化したがん細胞が、免疫の攻撃をかくぐり生き残ることからがんの長いストリーが始まります。

がん細胞は分裂を繰り返して、10〜20年の長い時間をか

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

出にくい症状 定期検査受けて

血液中に侵入し、別の臓器に新天地を見つける細胞も現れます。これが転移ですが、がん細胞は大腸菌などと同じようにクローム増殖で増えますから、全身に広がった無数のがん細胞は最初の細胞と同じ細胞といえます。全身の転移と同じ薬が効くのはこのためです。

希林さんは薬物療法を拒否

がえます。その結果、全身に転移があるにもかかわらず、映画やテレビで大活躍してきました。

「がんは痛くてつらい病気」と多くの日本人が誤解しています。そうした症状が表れるのは、亡くなる直前のこと。たとえば肝内胆管がんで死去した女優の川島なお美さんも、亡くなる数日前までミュージカルの舞台上に立っていたといわれます。

がんは「症状を出しにくい病気」です。早期に発見するには無症状でも定期的な検査を続ける必要があります。私自身も先日、ぼうこうがんを早期に見えました。詳細は

年明けに報告します。よいお年を。(東京大学病院准教授)

けて1センチほどの大きさになります。この大きさにならないと、私のようながん専門医でも診断は困難です。早期がんは2センチ程度までの大きさを指しますが、この大きさでは

症状が出ることはまずありません。ですから、早期にがんを見つけたかったら絶対調でもがん検診を受ける必要があります。

がんがさらに大きくなると

生前のインタビューなどから、仕事を第一に考えて治療法を選択していたことがうか